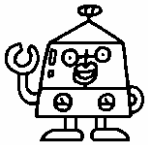


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

魚は、どうやってねるの



水底や水草のかけなどで、目を開けたまま、長い間じっと動かないでいるときは、たいてい、ねているんだよ。

魚は、まぶたがないから、目をとじることができない

どんな動物でも、生きていくかぎり、ねむっている時間があります。ですから、魚も、ねているときがあります。

魚には、たいていまぶたがありません。サメやフグのなかまには、動くまぶたのようなしくみがありますが、ねているときに、このまぶたをとじることがありません。だから、魚は、ねているときも目は開いています。

魚のねている時間は、種類によって、昼ねるもの、夜ねるもの、ときどき、うとうとしているものなど、いろいろです。キンギョは、昼ねもするようですが、夜、そうっとかい中電灯でのぞくと、水そうの底の方で、じっとしてねています。

魚のね方も、種類によっていろいろ

たいていの魚は、海底や川底近くで、海そうやもによりかかったり、海そうや水草のしげった物かけや、岩かけなどに、じっと動かないで、ねています。

ベラという魚は、夜になると海底のすなの中にもぐってねます。アナゴは、昼間は海底のすなの中にもぐりこんでねむり、夜に出てきて活動しはじめます。

アオブダイは、夜になると、岩かけで、ねん液^{えき}を出してふくろを作り、それで体をつつんでねむります。いつもすごいスピードで泳ぎ回っているカツオやマグロ、サバなどは、泳ぎながらねむるといわれています。



魚にも、夜活動するものや
昼活動するものがあるのね。